

令和3年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要

小学校国語

○正答率の状況（％）

	R3	R1
廿日市市	70.0	67.0
広島県	66.0	66.0
全国（公立）	64.7	63.8

正答率60％以上の設問（上位2問）

- 面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する。
 <設問2 二> 87.6％
- 丸山さんの【文章の下書き】の中の____部エを、漢字を使って書き直す。（げんいん）
 <設問3 三（1）エ> 87.1％

正答率60％未満の設問（下位2問）

- 面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。
 <設問2 四> 29.9％
- 面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。
 <設問2 三> 36.3％

広島県との差が大きかった設問（下位2問）

- 丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する。
 <設問3 一> ー1.0ポイント（廿日市市 65.1％、広島県 66.1％）
- 面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。
 <設問2 四> ー0.7ポイント（廿日市市 29.9％、広島県 30.6％）

正答率の状況から見える課題

<全体的な傾向> …【領域】「読むこと」に課題 【問題形式】記述式に課題

- ①目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けて文章を書いたり、中心となる語や文を見付けて要約したりする力が十分に身に付いていない。
- ②自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える力が十分に身に付いていない。

〈R3 長期教員研修研究報告書（友和小）より〉

令和3年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要

小学校算数

○正答率の状況（％）

	R3	R1
廿日市市	73.0	68.0
広島県	70.0	68.0
全国（公立）	70.2	66.6

正答率60％以上の設問（上位2問）

- 6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ。
＜設問 3（1）＞ 96.7％
- 学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ。
＜設問 3（2）＞ 92.0％

正答率60％未満の設問（下位2問）

- 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。
＜設問 2（3）＞ 50.6％
- 帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。
＜設問 3（4）＞ 54.0％

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

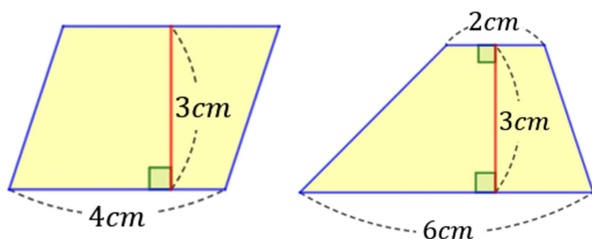
- 「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ。
＜設問 3（3）＞ -5.5ポイント（廿日市市 62.0％、広島県 67.5％）
- 直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。
＜設問 2（2）＞ -2.7ポイント（廿日市市 69.9％、広島県 72.6％）
- 500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く。
＜設問 1（2）＞ -0.3ポイント（廿日市市 87.0％、広島県 87.3％）

正答率の状況から見える課題

- ＜全体的な傾向＞…【評価の観点】思考・判断・表現に課題 【問題形式】記述式に課題
- ①図形の計量について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、筋道を立てて説明することに課題がある。 【B 図形】
 - ②身の回りの事象について、統計的に問題解決するために、集めるべきデータを判断したり、データを分類整理したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることに課題がある。 【D データの活用】

① 情報不足・情報過多の問題で必要な情報を取り出させる。→図形の構成要素に着目
面積の求め方と答えを式や言葉を用いて説明させる。→筋道を立てて説明する

親切すぎる問題の出し方していませんか？

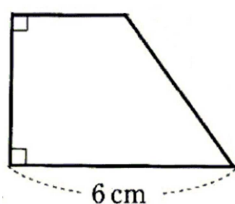


・面積を求めるために必要な要素（底辺・高さ等）の長さが、最初から書き込まれている。

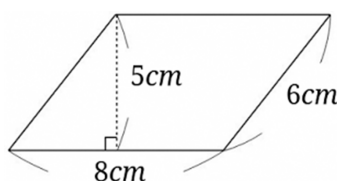
・どの辺が底辺となるのか、分かりやすい向きで図形が示されている。

※これでは、図形の構成要素に着目する必要がありません。公式さえ覚えていれば、なんとかなる。

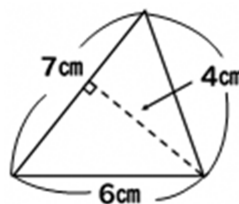
情報不足・情報過多の不親切な問題提示をしてみませんか！



情報不足



情報過多



図形の向き



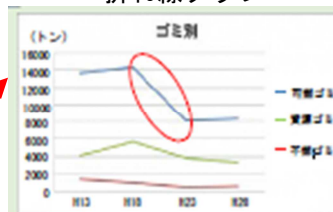
このような出題の仕方をする、「どの辺を底辺にすると考えやすいか？」「高さは、どの長さになるか？」「必要な辺の長さは、どの辺の長さ？」と、必然的に構成要素に着目するようになる。そして、面積の求め方を説明する際にも、着目したことを使いながら「〇〇を底辺とすると長さは〇cm、高さは△cmになる。だから、面積を求める式は、 $〇 \times \Delta \div 2$ （三角形の場合）となる。」という風に、数や式、言葉を用いながら説明することにつながる。

② 各学年の学習内容の系統性を理解し、統計的な問題解決活動を充実させる。

【第5学年】

・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、より適切なグラフを選択して判断し、多面的に捉えて考察する。

折れ線グラフ



帯グラフ



T「二つのグラフを比べて、どんなことが言えますか」

C「折れ線グラフから、可燃ごみが減っていることが分かり、帯グラフから可燃ごみの割合が減り、資源ごみの割合が増えたことが分かる。」＜分析＞読み取る・比べる

C「一人一人が努力してごみを減らしている。資源ゴミとして、できるだけリサイクルしているのではないかな。」＜結論＞考える

【D データの活用】系統図

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
身の回り			身の回り		
			目的に応じたデータ		
個数	データを整理する観点		データの特徴や傾向		
絵や図	〇のグラフ	棒グラフ	適切なグラフ		問題解決の過程
			折れ線グラフ	帯グラフ 円グラフ	
特徴を捉える	表やグラフを用いて考察する		結論について考察する	多面的に捉えて考察する	再考する
			見いだしたことを表現する		批判的に考察する
			選択する		判断する

系統図に照らし、身に付けさせたい力に応じた「問い」を設定する。

令和3年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要

中学校国語

○正答率の状況（％）

	R3	R1
廿日市市	64.0	74.0
広島県	65.0	74.0
全国（公立）	64.6	72.8

正答率60％以上の設問（上位2問）

- 漢字を読む。（伸ばして）
＜設問 4 ー ①＞ 97.9％
- 話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 1 二＞ 93.7％

正答率60％未満の設問（下位2問）

- 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。
＜設問 3 四＞ 18.7％
- 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。
＜設問 2 ー＞ 20.6％

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。
＜設問 3 四＞ ー4.0ポイント（廿日市市18.7％、広島県22.7％）
- 漢字を読む。（詳細）
＜設問 4 ー ②＞ ー2.7ポイント（廿日市市84.9％、広島県87.6％）
- 事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く。
＜設問 4 四＞ ー2.4ポイント（廿日市市70.2％、広島県72.6％）

正答率の状況から見える課題

〈全体的な傾向〉…【領域】「読むこと」「書くこと」に課題がある。

【問題形式】記述式に課題がある。

- ①条件に応じて、文章の中から、適切に引用することができていない。
- ②目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするための、段落相互の関係を理解できていない。

①正しく引用するために、引用する際のルールをおさえる。



「国語1」（光村図書）60ページ「情報社会を生きる」
【目的に合った情報を集め、活用させる】学習活動で、引用の方法を理解させる。

引用の仕方を定着させるため、例題で練習をさせる

- ・記載された内容を変更を加えることなく、誤字・脱字がないように。
- ・自分の考えと引用部分を明確に区別するために、引用部分には必ず「」をつける。
または、前後に行を空けて、1、2字下げる。

「・・・」と書かれていて、私は〇〇〇と感じました。

【引用部分】 【自分の考え】

②目的に応じた引用をするために、書いた文章を読み合い、相互評価を行う。



◆文章を読んで、自分の考えを書く活動において、「自分の考えを明確にするために引用する」という目的意識を持たせる。
文学的文章では読書感想文等、説明的文章では意見文を書く言語活動を取り入れる。

◆相互評価をさせる。

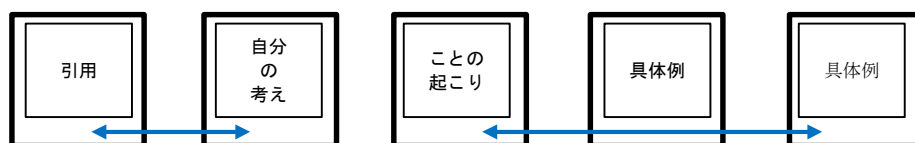
- 【評価の視点】①「自分の考え」が明確になっているか。
②引用した部分が「自分の考え」の根拠として適切であるか。

- ✓ 評価の視点は文章を書かせる前に提示する。→ 評価の視点を意識して書かせることで、より正しい引用、より説得力のある意見文に！
- ✓ 他者を評価させるときには、具体的にアドバイスさせる。
(例)「〇〇という意見ならAの部分引用するより、Bの部分引用した方が根拠としてふさわしいと思う」→ 評価をもとに、生徒が自身の意見文を加筆・修正することで、自己を調整する姿につながる！

③目的や意図に応じた、効果的な構成を考えることにより、段落相互の関係を理解させる。

◆構成メモを作成させてから、文章を書かせる。

- ・キーワードごとに、文章を書かせる。(1つのキーワードで1つの短冊)
- ・書き出した短冊を並べ直して、目的や意図に合ったより効果的な順番を考えさせる。



→ 目的意識・相手意識をもった、より分かりやすい構成の意見文に！

令和3年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要

中学校数学

○正答率の状況（％）

	R 3	R 1
廿日市市	54.0	59.0
広島県	57.0	60.0
全国（公立）	57.2	59.8

正答率60%以上の設問（上位2問）

- 与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める。
 <設問 7（1）> 92.9%
- 四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く。
 <設問 6（1）> 82.5%

正答率60%未満の設問（下位2問）

- 「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。
 <設問 8（3）> 7.2%
- $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く。
 <設問 9（3）> 26.2%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 経過した時間と影の長さの関係を、「・・・は・・・の関数である」という形で表現する。
 <設問 4> -7.0ポイント（廿日市市 40.0%、広島県 47.0%）
- 四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。
 <設問 9（1）> -6.6ポイント（廿日市市 37.6%、広島県 44.2%）
- $(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する。
 <設問 1> -3.7ポイント（廿日市市 72.1%、広島県 75.8%）

正答率の状況から見える課題

<全体的な傾向>全ての問題において、県平均を下回っている。

【評価の観点】思考・判断・表現に課題 【問題形式】記述式に課題

- ①データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
 【D データの活用】
- ②ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することに課題がある。
 【B 図形】

2つの資料について、多様な方法で比較させ、データの傾向を適切に読み取らせる！

日常生活や社会の事象を考察する場面において、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、それらを基に判断の理由を説明する際は、**グラフや代表値を用いてデータの傾向を捉え説明することや与えられた情報に基づいて複数の資料の特徴を正しく比較して説明することが大切です！**

- ① 階級と度数のみの度数分布表で比較する。



- ② 相対度数が入った度数分布表で比較する。



- ③ 度数分布表から作成した、それぞれのヒストグラムで比較する。



- ④ ヒストグラムから作成した度数折れ線（度数分布多角形）で比較する



- ⑤ 2つのヒストグラムを重ね、1つの図にまとめて比較する。



- ⑥ 2つの度数折れ線（度数分布多角形）を重ね、1つの図にまとめて比較する。

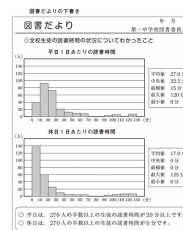
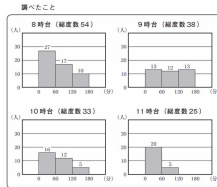
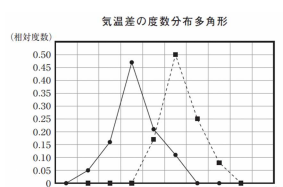
2つの資料の特徴を正しく比較し、数学的な表現を用いて説明することができる！

相対度数で比較する必要性を理解することができる！

生徒の多様な気づきから、データの傾向を的確に捉えることができる！

気付いたことや読み取ったことを伝え合う活動を行う！

気温差(℃)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ～ 3	1	0.05	0	0.00
3 ～ 6	3	0.16	0	0.00
6 ～ 9	9	0.47	0	0.00
9 ～ 12	4	0.21	2	0.17
12 ～ 15	2	0.11	6	0.50
15 ～ 18	0	0.00	3	0.25
18 ～ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00



★ 説明すること、表現することに苦手意識を感じている生徒たちの表現力を育むためには？

- ① **生徒のつまずきや反応を徹底的に予想する。**

生徒がどんな考え方をし、どのような表現をするのか、どのような誤答が出てきそうかなど、生徒のつまずきや反応を徹底的に予想する。その上でつまずきに対する手立てや切り返し発問を用意しておくことで、誰一人取り残さず、生徒全員に考えを持たせることができる。考えをもてるからこそ、表現することができる。つまり、ここをクリアしないと、表現力の育成にはつながらない。

- ② **数学用語を意識して使わせる。**

数学用語が使えていなければその都度指摘し、言い直させる。それが数学的に説明することにつながる。

- ③ **必ず「なぜ？」を考えさせ、根拠を明確にさせる。**

相手にとって分かりやすい表現、納得のいく説明となるよう、教師は「なぜ？」を問い続け、生徒はその「なぜ？」について根拠を明確にして説得力のある説明をする。

令和3年度全国学力・学習状況調査 質問紙における児童の学習状況の概要

小学校児童質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

	R 1	R 3	R 1からの増減
自分には、よいところがあると思いますか	84. 1	84. 7	0. 6
将来の夢や目標を持っていますか	85. 9	80. 6	－5. 3
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	82. 1	74. 3	－7. 8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95. 6	97. 0	1. 4
学校に行くのは楽しいと思いますか	84. 0	86. 6	2. 6
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	R 3 県平均	R 3 本市	県平均との差
	55. 9	53. 3	－2. 6
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	R 3 県平均	R 3 本市	県平均との差
	65. 7	69. 7	4. 0
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	R 3 県平均	R 3 本市	県平均との差
	64. 5	66. 4	1. 9

○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）（％）

R 3							
1. 先生に聞いた	2. 友達に聞いた	3. 家族に聞いた	4. 上記1、2、3以外の人に聞いた	5. 自分で調べた	6. 分からないことをそのままにした	7. 分からないことがなかった	8. 思い出せない
10. 3	35. 3	82. 1	10. 5	67. 5	9. 2	9. 0	4. 1

回答の状況から見える課題

- ① ほとんどの児童が、人の役に立つ人間になりたいと考えている一方、将来の自分のイメージを具体的に描くことができない児童が増加していると考えられる。
- ② 難しいことでも、失敗をおそれず挑戦している児童が大きく減少している。休校等により、協働的な学びの機会や先生からの直接の支援を受ける機会、さらには、挑戦する機会そのものが減少していることが影響していると考えられる。
- ③ 休校期間中の課題に対し、分からないことをそのままにしている9. 2％の児童は、課題を自力解決する力が育っていないことが考えられる。

課題①・②に対して

○特別活動の充実

今般の改訂で、特別活動はキャリア教育の要の役割を果たすことが示され、学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設された。自己の成長のために、よりよく生きるために、自分に合った目標や具体的な方法を意思決定する活動を積み重ね、学級活動（２）と合わせて自己実現を図る学習の充実に取り組むことが効果的である。

「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」学習過程

ポイント

（例）学級活動（３）ア 現在や将来に希望や夢をもって生きる意欲や態度の形成

題材「４年生になって」

・ **つかむ** [実態や現状の把握、課題の把握]

→ 「４年生で楽しみにしていること」のアンケート結果から課題をつかむ。

・ **さぐる** [原因の追究、可能性への気付き]

→ 上級生の経験談、教師や保護者の思いから、楽しみにしていることを実現するために必要なことや努力しなければいけないことを知る。

・ **見つける** [解決方法等の話し合い]

→ 自分が目指す姿に向けて必要なことや努力しなければいけないことについて出し合う。

・ **決める** [個人目標の意思決定]

→ みんなで出し合った解決方法等を参考にして、自分が目指す４年生になるための自分に合った具体的な目標や方法を決める。

ポイント



自己の問題
の解決方法
についての
意思決定

なりたい自分
に向けて、今
努力すること
についての意
思決定

事後指導の中で目標実現への意欲を高める

（例）一人一人が意思決定したことを掲示したり、発表し合ったりする。

努力の結果に加え、目標実現に向けた児童の活動の過程を見取り励ます。

定期的な振り返りによる意識付けを図る。

頑張って
よかった

やれば
できる

課題③に対して

○一人１台端末の効果的活用

一人１台端末の配付が完了し、児童が家庭に持ち帰ることができるようになったことで、新型コロナウイルスによる休校等があっても、教育活動を継続することが可能となった。一方で、他者とのかわりや協働的な学びの機会が減少することによる影響については、一人１台端末を活用した取組の工夫が必要である。

・ 休校等により、児童が家庭で一人１台端末を使って学習する状況が生じた際には、オンラインによる授業を積極的に取り入れ、他者との交流など学び合いの場面を位置付ける。

・ 学力に課題がある児童に対しては、必要に応じてオンライン授業後や放課後等に面談を行い、個別に補充する。

令和3年度全国学力・学習状況調査 質問紙における生徒の学習状況の概要

中学校生徒質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

	R 1	R 3	R 1からの増減
自分には、よいところがあると思いますか	83. 1	81. 2	－1. 9
将来の夢や目標を持っていますか	76. 4	69. 7	－6. 7
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	73. 6	68. 4	－5. 2
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96. 0	95. 7	－0. 3
学校に行くのは楽しいと思いますか	83. 7	78. 5	－5. 2
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	R 3 県平均	R 3 本市	県平均との差
	63. 4	60. 2	－3. 2
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	R 3 県平均	R 3 本市	県平均との差
	42. 4	41. 7	－0. 7
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	R 3 県平均	R 3 本市	県平均との差
	53. 0	51. 9	－1. 1

○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）（％）

R 3							
1. 先生に聞いた	2. 友達に聞いた	3. 家族に聞いた	4. 上記1、2、3以外の人に聞いた	5. 自分で調べた	6. 分からないことをそのままにした	7. 分からないことがなかった	8. 思い出せない
5. 6	53. 9	49. 9	10. 6	63. 8	11. 6	5. 1	6. 3

回答の状況から見える課題

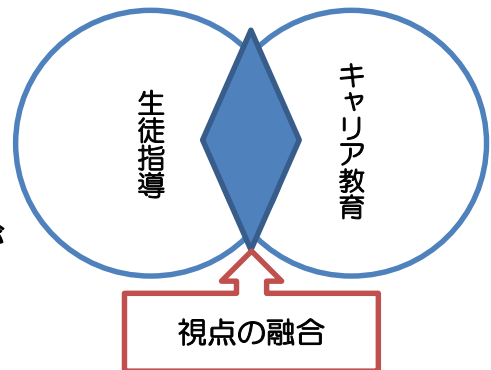
- ① 「自分にはよいところがある」という項目と夢や目標、チャレンジ精神の項目についての減少幅の差が大きい。自己有用感が将来の展望や挑戦することへの意欲につながっていない。
- ② コロナ禍での学校生活が長期にわたり、学校生活の中で楽しいと感じる場面に制限がかかっていることが常態化しているため学校生活の満足度にネガティブな影響を与えている。
- ③ 休校期間中の学習に不安を感じた生徒の割合と学校からの課題で分からないことをそのままにした生徒の割合はいずれも県平均を下回っていた。また、11. 6％の生徒は課題を自力解決する力に課題がある。

課題①・②に対して

◇キャリア教育の視点を取り入れた生徒指導◇

ガイダンスとカウンセリング機能の充実（学習指導要領総則編解説より）

生徒の発達の特長や教育活動の特長を踏まえて、あらかじめ適切な時期と機会を設定し、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒が抱える課題を受け止めながら、その解決に向けて、主に個別の会話・面談や言葉がけを通して指導や援助を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援することが重要である。



○ 学級活動において

入学時、新学期開始時において、教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係が生まれるように配慮するとともに、生徒自身が学校や学級における諸活動や集団の意義、内容などについて十分に理解し、自発的によりよい生活に取り組めるよう創意工夫する。

やってみよう！

係活動において ～目標設定と振り返りの充実～

〇〇係宣言

〇〇係は

に取り組みます。



=自己評価表= 氏名 (〇〇〇〇)

(〇〇〇) 係の活動を振り返って

主な活動内容	よかったところ	改善すべきところ
[学級の仲間へメッセージ]		

振り返りの視点

- ・ 自分や学級の目標を達成できたかどうかの確認
- ・ 学級や自身の成長に向けて「何を学んだのか」の確認
- ・ 活動や実践によって自分たちは何が変わった（成長した）のかの確認
- ・ 自身や学級の次の目標の確認

課題③に対して

○ 教科の学習において

新たな学習や各種の学習活動の開始時期などにおいて、生徒がこれから始まる学習に対して積極的な意欲をもち、主体的に活動に取り組むことができるよう十分に配慮する。

やってみよう！

- ・ 課題やテーマ、プロジェクトチーム等について、児童生徒に**選択肢**を与えよう！
- ・ 選択肢の中から**自己決定**させよう！



児童生徒の「主体的な活動」につながる！